

男子の服装は、寛大なる筒袖長襦袢袴下様の下衣を着用し、帯は多く赤地に白模様ある金巾織の兵兒帯を用ゆ。右方の前には、小刀其他二三用具の革袋を垂れ、其の上に筒袖長羽織様の上衣（唐繻子又は絨を用ゆ）を着し、足には革製の長足袋（イチキ）と稱す）と短靴とを穿ち、一見長靴を穿つに異ならず。屋内に入るときは、短靴を脱して頗る便利なり。

女子の服装も、大略男子と同一なるが、只其の下衣は、長「シャツ」様の寛長なるものを着し、帯を用ゆる無きが故に、更に其の前面を開かず。肩を開きて上部より着脱に便にす。其他女子の衣服には、上衣の襟及袖口に繡箔を施し、裝飾を加ふること、男子と異なる所なり。

女子外出の時は、白布或は花布（シヨール）の如きものを頭上より被り、之を後方に長く垂る。又紗様の顔簾を以て面を掩ふを常とし、服装は老幼を別たさず、殆んど同じとす。

纏頭回は概して男女共に華美を嗜好する民族とす。故に女子は勿論、男子も尙ほ赤模様ものを愛用せり。例へば男子の帯及衣服の裏地は、老若の別なく大抵